

放課後等デイサービス事業所における自己評価結果(公表)

公表:令和6年2月22日

事業所名 ミライク学園

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	6			
	2	職員の配置数は適切である	6			
	3	事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされている	4	2	・子どものスケジュールをそれぞれ見やすい位置に配置している。	・身体障害者用のスロープやトイレ等の設置はしていないため、利用児童の受け入れに応じて設置、整備を検討する。
業務改善	4	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	5	1	・毎月の会議で振り返りをしている。	
	5	保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	6			・現在各ご家庭へのアンケートを実施中。今後会議を行いHPで公表予定。
	6	この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開している	3	3		・新規事業所のため、現在実施中のものを今回実施分からホームページにて公開予定。
	7	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている		6		・新規事業所の為まだ実施していないが、今後外部評価を受けることも検討する。
	8	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	6		・研修情報が全体に共有されている。 ・定期的に全体研修の機会が設けられている。	
適切な支援の提供	9	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成している	6			
	10	子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している	5	1		・子どもの年齢や事業所の特色に合わせたアセスメントを検討していく。
	11	活動プログラムの立案をチームで行っている	6			
	12	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	6			
	13	平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援している	6		・平日休日ごとにスケジュールを作成している。	・おおまかには決められているが、細部に関してより細やかに支援ができるよう情報共有体制を整えていく。
	14	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成している	6		・運動療育を集団で行い、個別課題も実施している。	
	15	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	6			
	16	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	5	1		
	17	日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	6		・その日の記録はその日のうちに取り、職員間で共有している。	・記録を確認し、今後の支援の参考にしたい。
	18	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断している	6			
19	ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせ支援を行っている	6				
	20	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	6			
	21	学校との情報共有(年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等)、連絡調整(送迎時の対応、トラブル発生時の連絡)を適切に行っている	6			
	22	医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えている	3	3		・協力医療機関はあるが、現在は該当児童がいない。今後必要に応じ医ケア児についての連絡体制を整えていく。

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
関係機関や保護者との連携	23	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めている	3	3		・現在、該当児童なし。 ・今後必要なお子さんに対して支援できる体制づくりをしていく。
	24	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等している		6		・卒業生をまだ出していないため、該当児童はいないが、今後必要なお子さんに対して支援できる体制づくりをしていく。
	25	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	6			
	26	放課後児童クラブや児童館との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある	4	2	・子ども食堂や各行事等を通じて交流している。	
	27	(地域自立支援)協議会等へ積極的に参加している	6			
	28	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	6		・送迎の際のちょっとした保護者との会話も大切にしている。	
	29	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っている		6		・必要ご家庭には随時ご案内をさせていただきます、当事業所でもペアレント・プログラム研修修了者も在籍しているため、必要に応じて実施する。 ・次年度実施を検討している。
	30	運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	6			
	31	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	6			
保護者への説明責任等	32	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している		6		・今後は保護者会の実施も検討している。
	33	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応している	6		・苦情等、電話対応は丁寧に行われていると思う。	
	34	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	6		・LINEでの情報交換も行われており密だと感じる。	
	35	個人情報に十分注意している	6			・SNSツールでの保護者連絡時に、他の子どもの写真が映り込まないように配慮が必要。 ・新聞、テレビの取材等、写真や氏名の使用可を問われることが多かったため、個人情報の取り扱いについて細分化する必要があると感じた。
	36	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	6			
	37	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	6		・子ども食堂などのイベントを開催している。	・事業所の行事の宣伝の仕方を工夫し、より多くの方に周知し参加してもらえるようにする。
	38	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知している	6			
非常時等の対応	39	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	5	1		
	40	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	6			
	41	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載している	2	4		・身体拘束を行うケースなし。 ・身体拘束のマニュアルは整備しているが、児童発達支援には記載していなかったため今後は計画にも記載する。
	42	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	5	1		
	43	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	6		・自分の行動を改め見直す機会となっている。	